（２）その他，特筆すべき教育・研究・診療・社会貢献活動等への取組と成果，世界的位置付け（ISI citation など）など。＊ISI データのない場合は，可能であればいろいろな指標を使って国内的位置づけを示す。

分野	取組と成果、世界的位置づけ	１８年度の状況
特筆すべき教育活動	１．佐藤源之教授は、地中レーダ(GPR)技術に関する集中セミナーをスペイン・グラナダ大学(2007 年 1 月)、中国・中国科学院研究院（2007 年 5 月）などで、大学院学生、若手研究者を対象に行っている。同様に国内でも学会技術講習会講師を務め、技術の普及に努めている。 ２．佐藤源之教授は、高校での進路指導のための講義（2006 年 10 月)、小学校への出前授業（2006 年 11 月)、中学生を対象とする大学での授業「夏休み大学探検」(2007 年 8 月）などを通じて地下環境計測への興味を持たせる努力を行っている。 ３．平成１８年度全学教育の基礎ゼミの実施例として、瀬川昌久教授の授業が模範例として取り上げられ、平成１８年１１月に行われた次年度に向けての FD において発表された。	
特筆すべき研究活動	１．佐藤源之教授は、イノベーションジャパン（2007 年 9 月)、ISPA 国際会議（2007 年 8 月)、その他、地雷検知技術の一般公開を積極的に行っている。これに関する要素技術は高周波数計測技術、センサ追跡技術など新しい技術が含まれており、地雷除去分野以外からも外国を含む企業から、特許技術などへの問い合わせが来ている。 ２．工藤純一教授が中心となって構築し HP 上で公開している東北大学ノア画像データベースに昨年１年間で２６０万件を越すアクセスがあった。同データベースは、国内はもとより世界的にも東北アジア地域をカバーする環境情報に関するのデータベースとしては唯一のものである。 ３．菊地永祐教授、鹿野秀一准教授ら地域生態分野では、ロシア科学アカデミーシベリア支部動物分類学・生態学研究所の研究者との共同研究「西シベリア塩性湖チャニー湖沼群の生物と環境の調査」を、科研費(B)(海外学術)を３期連続（各期３年、本年度は７年度目）して獲得し、進めており、その成果はすでに８編の論文として国際誌、国際学会の Proceeding に発表されている。 ４.谷口宏充教授の主導する白頭山噴火に関する研究が韓国の KNN テレビで放映され、同時に、中国の長春において白頭山に関する東アジア国際シンポジュームが開催されることになった。 ５．奥村誠教授による「災害時の住民の避難行動に関する研究」について、2006 年 10 月，東北大学工学部附属災害制御研究センターの公開講座にて特別講演を行い，定員を超える参加者を得た。国土交通省東北地方整備局の防災対策関係部局の強い関心を呼び、12 月には整備局にて研究内容の解説を行った。2007 年～2009 年度の整備局から上記災害制御研究センターへの委託研究の中のひとつのテーマとして，本研究の展開が位置づけられた。 ６．石井敦准教授の日本の捕鯨外交に関する研究成果に基づいたコメントが Japan Times（2007 年 2 月 11 日付）に掲載された。 ７．石井敦准教授の炭素隔離技術の技術評価に関する研究成果に基づいたコメントが毎日新聞（2006 年 9 月 14 日付）に掲載された。	

	８．ISI 社の JCR、2005 年において人類学分野雑誌 51 誌のうち 3 位にランクされている Currnt Anthropology 誌 47-6 号(2006)に高倉浩樹准教授の論文「Indigenous Intellectuals and Suppressed Russian Anthropology: Sakha Ethnography from the End of the Nineteenth Century to the 1930s」が掲載された。 ９．平成１８年度～１９年度、瀬川昌久教授は日本文化人類学会の学会誌『文化人類学』の編集委員書評主任に選任された。 10．明日香教授が 2006 年度の山崎賞を受賞した。	
特筆すべき社会貢献活動	１．2006 年 10-12 月カンボジアで、佐藤教授が中心となって開発した地雷検知機の評価試験を外務省援助を受けて実施した。同技術は 2006 年 3 月、ジュネーブで開催された国連主催地雷除去担当者会議で、新技術紹介のセッションにおいて招待講演を行った。 ２．佐藤教授が中心となって開発した地雷検知機の同技術は、大学で開発された技術が社会貢献する可能性をもつものと評価を受けており、仙台放送、NHK、河北新報、日経新聞その他メディアに数多く取り上げられている。これに対して外国の地雷除去機関からの評価試験に関する申し入れを受けている。 ３．工藤純一教授行っている衛星画像を利用したシベリアの森林火災研究について、ＦＡＯ（国連世界農業食糧機関）からモンゴルへ地域への応用について要請があった。これは研究成果が国際機関から高く評価されていることを示すものである。 ４．平川教授が主導する古文書等の歴史資料保全活動は、歴史学界でも宮城モデルとして注目され、また特筆すべき社会貢献活動として、読売新聞の「東北大学 100 年」(2007 年 6 月 15 日)や、仙台放送「東北大学百年物語」(同年 7 月 2 日）で報じられるなど、社会的に高い関心を集めた。	